

OSAKA BOILER

TECHNICAL INFORMATION

株式会社 大阪ボイラー製作所

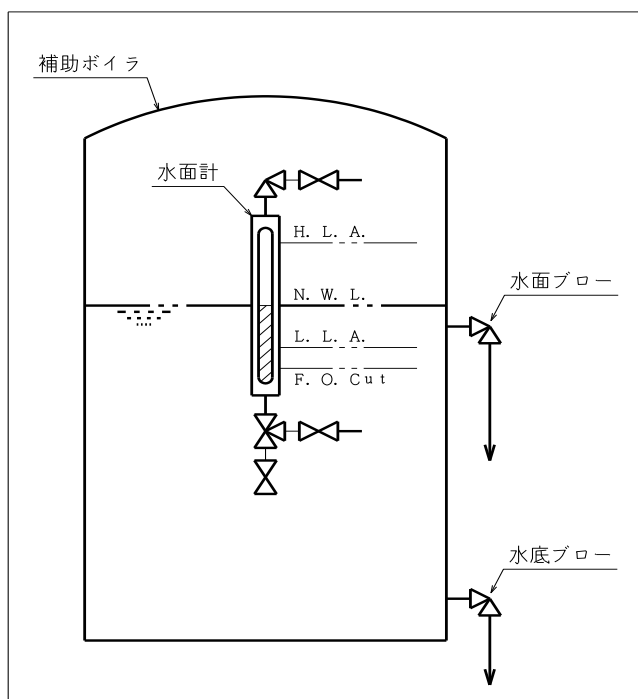
ボイラ水ブロー不足による腐食トラブルについて

【対象機種：専焼ボイラ、コンポジットボイラ、汽水分離ドラム】

ボイラ水ブローを怠りますと内部腐食が進行し、チューブ水漏れ等重大事故が発生します。近年このブロー不足による腐食トラブル事故が多発しております。下記の要領にて十分なボイラ水ブローの実施を行って戴きたく注意を喚起いたします。

ボイラ水のブローはボイラ内部を良好な状態に保つために非常に重要な作業です。ボイラには水面ブローと缶底ブローの2つのブローラインが必ず装備されています。水面ブローは水面付近に浮遊している不純物を、缶底ブローはボイラ底部に濃縮、沈下した不純物を排出します。

ボイラ水の分析結果に関わらず、**2日に1回の頻度で必ずブローを行って下さい。また、ブロー量は水面計の水位で管理して下さい。**ブロー弁の操作時間による管理は決して行わないで下さい。



水面/水底ブロー弁



ブロー不足によるチューブ腐食



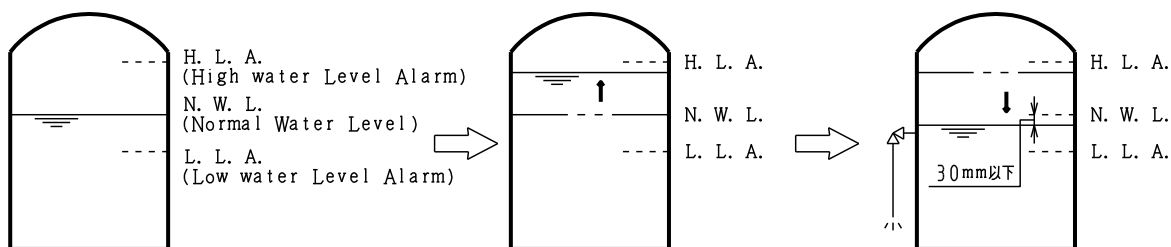
ブロー不足による缶内スラッジ蓄積

ボイラ水ブロー手順

1. バーナを停止する。
2. 給水ポンプを手動運転に切り替える。
3. 水面ブロー
 - 1) 給水ポンプを運転し水位を高水位警報(H. L. A)付近まで上げ給水ポンプを停止する。
 - 2) 水面ブロー弁を開ける。
* ブロー弁の開度は、必ずハンドルを1回転以上とする。
 - 3) 水面計を確認しながらボイラ水位約150mmを水面ブローする。
* この時水位を基準水位(N. W. L.)より-30mm以下に下げないように注意する。
4. 水底ブロー
 - 1) 給水ポンプを運転し水位を高水位警報(H. L. A)付近まで上げ、給水ポンプを停止する。
 - 2) 水底ブロー弁を開ける。
* ブロー弁の開度は、必ずハンドルを1回転以上とする。
 - 3) 水面計を確認しながらボイラ水位約150mmを水底ブローする。
* この時水位を低水位警報(L. L. A.)以下に下げないように注意する。
5. 給水ポンプを自動運転に切り替える。
6. バーナを自動運転する。

ブロー要領図

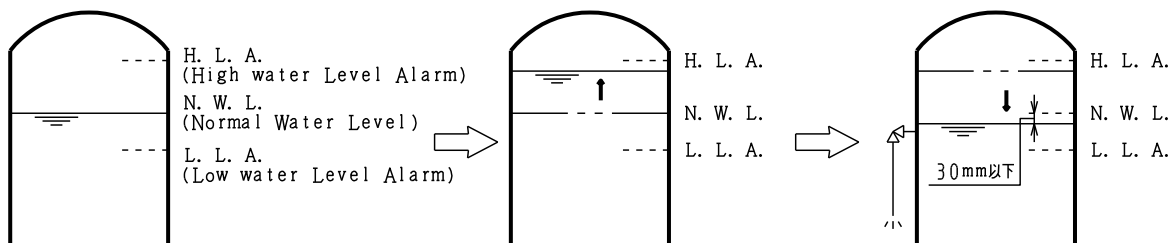
1) 水面ブロー



N. W. L. よりH. L. A. 付近まで水位を上げる。

水面ブロー弁を開き、水面計の高さで約150mm分をブローする。
このとき水位がN. W. L. -30mmより下がらないように注意すること。
1回で水面計の高さ約150mm分をブローできない場合は、この作業を繰り返し、合計で約150mm分をブローする。

2) 水底ブロー



N. W. L. よりH. L. A. 付近まで水位を上げる。

水底ブロー弁を開き、水面計の高さで約150mm分をブローする。
このとき水位がL. L. A. より下がらないように注意すること。